

司式 ローレンス・スパーリンク宣教師

前 奏

奏楽 森永美保姉妹

開 会 招 詞 詩編23編1b-4a節

* 賛 美 歌 25:1 あまつみつかいよ

あまつみつかいよ、イエスの御名の ちからをあおぎて 主とあがめよ。
ちからをあおぎて 主とあがめよ。アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書3 罪の告白②

主なる神よ、あなたの御前に背きの罪を告白します。わたしは聖なる戒めに従わず、失われた羊のように迷い出て、思いと言葉と行いにおいて罪を犯しました。しなければならぬことをせず、してはならぬことをして、自分の身に、あなたの怒りと裁きを招きました。憐れみに富んでおられる父よ、罪と過ちを悲しむわたしに憐れみを注いでください。神の独り子である救い主の名によって、わたしを赦してください。聖霊の恵みによって、わたしを新しく生まれ変わらせてください。願わくは今から後、み栄えのために生きる者とならせてください。主イエス・キリストの御名によって。

アーメン。(詩編32、イザヤ53、ローマ7)

罪の赦しの宣言

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。(出エジプト20、申命記5)

* 賛 美 歌 50:1 かいぬしわが主よ

かいぬしわが主よ、まようわれらを あおくさののべに みちびきたまえ。
われらをまもりてやしないたまえ、われらは主のもの、主にあがなわる。アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書6 ニケア信条 (一部: 神の独り子に就て)

我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさきのみ父より

生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質にいます真の神。
万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのために天より降り、聖霊に
よって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポンテオ・ピラトのもとに十字架につ
けられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目によみがえり、天に昇り、み父の右に座
し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光をおびて再び来たりたもう。その御国は終わること
がない。

献 金 (黒)教会活動 (赤)第76回大会会議 70
今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 三ハネによる福音書10章1-16節(新約聖書186頁)
ルカによる福音書15章1-7節(新約聖書138頁)

説教・祈祷 「あなたにとってイエス様は？」 L. スパーリンク宣教師

* 賛美歌 82:1 歌いつづけよう 主の愛を

主イエスの深い愛に触れて わたしにも愛がうまれ、
主イエスを信じたときから わたしに歌がうまれた。
いつまでもうたい続けよう 主のあいのひろさふかさを
十字架にいのちをすてた そのあいの大きいさを。

* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ

願わくは御名をあがめさせたまえ

御国を来たせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ

我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 63 あめつちこぞりて

あめつちこぞりて かしこみたたえよ、
みめぐみあふるる 父、み子、み霊を。 アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告 門脇陽子長老(司会・受付 次週:雨宮信長老)

本日 受付 1階:藤原宏章執事 2階:古澤迪子執事 / 動画:雨宮信長老 録音:大日南信也執事
次週 受付 1階:長尾牧執事 2階:星野房子執事 / 動画:森川莞太兄弟 録音:番場駿也兄弟

は？

参照：ハイデルベルク信仰問答問 Q. & A. 29-31、33-41、44-46、49-52

説教者：ローレンス・スパーリンク（キリスト改革派日本伝道会宣教師）

中心的主張点：イエス様を親しく知り、いつも主と共に歩もう。これこそ真の幸いを
味わう秘訣である。

聖書箇所：ヨハネによる福音書10章1-16節（新約聖書186頁）

「はっきり言っておく。羊の囲いに入るのに、門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。門から入る者が羊飼いである。門番は羊飼いに門を開き、羊はその声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。羊はその声を知っているのだから、ついて行く。しかし、ほかの者には決してついて行かず、逃げ去る。ほかの者たちの声を知らないからである。」イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。イエスはまた言われた。

「はっきり言っておく。わたしは羊の門である。わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。わたしは門である。わたしを通過して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。—狼は羊を奪い、また追い散らす。—彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。

聖書箇所：ルカによる福音書15章1-7節（新約聖書138頁）

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うておくと、このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある。」

今度お話する説教では、私の救い主、イエス様を紹介して、この方を親しく知るようにお勧めしようと思っています。この前、「The Chosen」というテレビ番組の企画を一度紹介しました。新約聖書に登場するイエス様を、本当に質の良い、聖書に忠実に描写して、イエス様をこのメディアによって紹介することを目的としています。各エピソードでは、イエス様の当時の地理的背後、文

化的、政治的、また日常生活的なことを注意深く丁寧に見せてくれますので、本当に聖書朗読にとっても参考になります。しかし、やはり、番組ですから、各イベントの背景を想像力を働かせて、聖書意外に登場する人たちや、聖書にある会話意外にたくさんの事柄が入ります。また、イエス様をはじめ、弟子たちが登場し、話したり動いたりしているのはいいのですが、映像のイメージに迫力があり、印象を焼き付けてしまいますので、よく注意しなければなりません。ですから、いつも、神のみことばとして与えられている、権威ある聖書に戻らなければなりません。こんなお断りをしながらも、いろいろ考えさせられます。私にとってイエス様はどなたですか、どんなお方ですか。私とイエス様の関係は健全なのですか。イエス様とちゃんと歩んでいますか。どうやってイエス様を人に紹介しますか。このように再び自分に問い出すのはとても健全な良いことです。

ちょうどこのように考えていた時に、私が所属しているCRC教会の牧師たちのフェイスブックのグループにとっても興味深い投稿がありました。メンバーの一人が次のように私たち教師たちに問いだしました。「イエス様を知るには最も決定的な聖書箇所はどれなのですか？」もう一度。「イエス様を知るには最も決定的な聖書箇所はどれなのですか？」

回答は17ありました。1000人以上の教師を誇るCRC教会ですので、ちょっと少なかったですね。でも、FBなりにはこんな数字は普通です。

では、回答をどう分析しましょうか。二人はイエス様が生まれる前の旧約聖書のイザヤ書だと答えました。預言者が主の僕メシヤの紹介するイザヤ書42章。そして、イエス様ご自身がご自分の故郷ナザレの会堂で、自分がこういうものだと読み上げるイザヤ書61章。なるほどですね。もう五人は新約聖書の書簡から選びました。そのうちの4人は実は同じ箇所を選びました。それはフィリピの信徒への手紙2章です。そして、「神は愛です」と書いてあるヨハネの第一の手紙。あとの10名はやはり福音書の箇所を選びましたが、そのうちの7名はヨハネによる福音書でした。ちなみにゴー先生が説教準備の最中に私の事務所に見えたのですから、ゴー先生にも聞いたら、やはり、ヨハネ伝でした。

では、このようにいろいろ考えさせられて、イエス様を知る方法を3つ紹介したいと思います。イエス様をどのように知るか。まずその1は、イエス様の自己表現を聞くことです。

教師仲間は多くヨハネによる福音書を最も印象的だと選んだのは偶然ではありません。ヨハネによる福音書はイエス様の自己表現の最も多い書物です。イエス様の長い話も丁寧に記録されています。肉となって地上に現れた永遠の神の独り子の話で始まり、復活して弟子たちに現れることで終わる福音書の目的文書によると、ヨハネがこれを書きまとめたのは、私たちがよりよくイエス様を知り、イエス様を信じ、イエス様より命を得るためであるとなっていますね。

イエス様の自己表現がある特殊なお話によってよく示されます。それは、ギリシヤ語で、「エゴ・エミ」で始まる聖句です。「私は（何々）である」という箇所はヨハネ伝に7つあります。1) 私は命のパンである。2) 私は世の光である。3) 私は門である（羊の檻の門）。4) 私は良き羊飼いです。これは今日読んだ箇所ですね。5) 私は蘇りであり、命である。6) 私は道であり、真理であり、命である。そして、7) 私はブドウの木である。これら一つ一つをゆっくと説教してもいいぐらい、イエス様の豊かな自己表現を含めています！

イエス様はさらに、ご自分が何をしにこの世に来られたかをちゃんと表現してくださいませ。イザヤ書61章の引用もそうですが、例えば、マルコによる福音書の10章45節には、「人の子が来たのは、自分に仕えてもらうためではなく、仕えるためであって、多くの人の身代金として自分の命を捧げるためである。」とおっしゃいます。

いうまでもないけれども、イエス様の自己表現、自己揭示のこのような箇所が他にもたくさんあります。ゆっくりとこれらについても瞑想することを勧めます。これらによってイエス様をよりよく知ることができるからです。

イエス様を親しく知る方法、その二つ目はイエス様の教えを聞くことです。これが最も集中的に書いてあるのは、私に言わせると、マタイによる福音書の5章～7章にある イエス様のいわゆる山上の説教です。「山上の垂訓」とも呼びますね。ああ、私の大学時代の懐かしい思い出があります。大学生仲間と一緒にあの町にあった刑務所に入って、収容された方々のために歌を拾ったり、おしゃべり会の時を持って、その帰り道に、自分のいつも携帯していたポケット聖書を 道を歩きながら読んでいました。読んでいたのはイエス様の山上の説教。なんといい美しい、意義深いことばなのかと、圧倒される思いとなりました。正しい、汚れのない生活を送るようにと主が呼びかけてくださいます。ことばを読んでいるわけですが、私がまるでイエス様の足元に弟子たちと一緒に座り込んで聞いている心地です。時にはイエス様の視線が私の目につながります。主がこの私をご自分について行って、まことの幸いを知るように招待しておられます。これらの教えを読むとこれは実際に起こるはずで。また、このイエス様の教え方にも注意します。研究して、瞑想して、自分で良いと思う発表ではありません。権威ある、まさに主のみことばです。この方こそが主なる神であり、肉となって現れた 生ける神の独り子です。口を開けてお話になるところは実際に 恵みと誠で満ちた命のことばです。そう読んでいる私に感動のあまり、嬉し涙でボロボロになってしまいました。このお方は私の救い主、また、私の友。天においても地においても一切の権能を授かっておられます。それでも、この私に手を差し述べて、「私に従いなさい」と招いてくださいます。「あなたのために永遠のみ国の居場所を用意しているよ。」と教えてくださいます。「私のくびきは負いやすく私の荷が軽いから、私の元に来て私から学びなさい。私は休ませてあげよう。」とお誘いいただきます。今も。これらを教える主のみ声に聞いていらっしやるでしょうか、皆さん？涙して当然でしょ！

でもなお、イエス様を親しく知るさらに優れた方法があります。それは 3つ目、イエス様の行動を見るという方法です。ことばがとても大切でその重みがあります。イエス様の言葉は神のことばです。私たちの心に響き、私たちの魂をリフレッシュします。これらのことばによって私たちを近くに呼び寄せて、希望を与えます。

でも、「論よりも証拠」というように、「ことばよりも行動」と言えるかもしれません。

皆様の 自分自身にとって目立つイエス様の行動はどれでしょうか。ちょっと考えてください。どれが浮かび上がるのでしょうか。メモして、あとでもう一度聖書で読んで瞑想しましょう。あなたにとって目立つのはどれでしょうか。心の中で、頭の中で、そうなさるイエス様を描いてみてください。神の恵みと慈しみが肉体となってくださったお方。へりくだって優しいお方。

- 手を述べて、人のあらゆる病を癒す主イエス。
- 神の子らを苦しめる汚れた霊を一つの言葉で追い払う主イエス。
- 披露宴でぶどう酒が足りない仲間のメンツを助けて、水をぶどう酒に変える主イエス。
- 生まれつきで目の不自由の惨めな人を 見えるようにしてくださる主イエス。
- 社会的隔てを乗り越えて、サマリヤの町の人々に 初めて、自分が予言されたキリストだと教えてくださる主イエス。
- お兄様が亡くなられた姉妹達と共に嘆いて、涙す主イエス。
- 言葉一つで嵐を静める、自然界を支配する主イエス。
- 死人をよみがえらせて、嘆いていた 愛する家族に返す主イエス。
- 身分の最も低い僕となり、ひざまずいて足を洗ってくださる主イエス。

- ー ゲッセマネの園で 想像を絶する苦痛を前にして 覚悟して祈りを捧げる主イエス。
- ー ローマ兵の侮辱とムチに打たれて 黙って 我慢する主イエス。
- ー 無罪と証明されても罪人の身代わりとなり、十字架にかかってくださる主イエス。
- ー ご自分の苦しみと蘇りがちゃんと旧約聖書で予め示されていたことを丁寧に 心の鈍い弟子たちに忍耐を持って説明してくださる主イエス。
- ー ご自身を信じるだけではなく、ご自分が 世の罪を赦し、永遠の命を与えてくださる 唯一のまことの救い主であることを告げ知らせる使節となるように任命してくださる主イエス。

私の場合はどうなのでしょう。 「私の主イエス」を紹介しよう。

詩編23編は多くの人たちの愛称聖句ですね。「主はわが牧者なり。」「主は私の羊飼い。」しかも、その羊飼いはあのイエス様ご自身です。しかも、良き羊飼いでいらっしゃる。今日の朗読聖書、ヨハネ伝10章はそれが その羊である私たちにとってどういう意味であるかをイエス様が丁寧に語ってくださいます。私たちのために命を捨てて、救い出し、終わりの日に蘇らせ、永久に天のお父様の御手のうちに守ってくださる羊飼いです。他の人ではなく、この私の羊飼いです。ご自分を信じて従うあなたの羊飼いです。

幾度かこの主の言葉を繰り返して読みましょう、心に染み込むように。ここに私たちの救いがあります。

ルカ伝の15章も有名なところ。つまらない迷子の羊のために命がけで探し当たり、抱き上げておりに連れ戻す救い主です。続きを読めば、無くされた銀貨を探し当てて喜ぶ主、放蕩息子を赦し、迎え入れる主が御心を教えてください。

このように私たちを常に見守る、共に歩んでくださるのは 先祖や戦没者や地蔵ではなく、私たちに究極的な救いに導き入れてくださる主イエスです。私たちがその前にひざまずき、自分の心をご自身の住処にしてくださるように祈るときに、直ちにそうしてくださる主イエスです。こうして私たちはイエス様についての情報だけを知るものとは違って、イエス様を知り、私の主また神として崇め、私を助けて守ってくださる友となっただけです。心の中で「どうぞ主よ、お入りになってください。罪から清め、私と共に交わりください。」ここに、主を知る秘訣があります。あなたもこれを体験していらっしゃるでしょうか。

イエス様はある時その弟子たちに、「人は私が誰だと言っているか。」と問いだします。「生き返ってきた洗礼者ヨハネだ」とか、預言者エリヤかエレミヤだという人もいる。」と答えます。「では、あなた方は私のことを何者だと思っているか。」と聞くと、弟子のペテロさんが直ちに答えます。「あなたは生ける神の子、救い主キリストです。」と答えます。イエス様の自己表現を聞き、その教えに預かって、イエス様の行動を見れば、これは当然の結論です。けれどもイエス様はこの時に言います。「このように私のことを理解する者は幸いです。人間は自分の能力で理解できないことを、天のお父様が知らせてくださったからです。」

イエス様は私たちの良き羊飼いです。探して、見つけ出して、安全なおりに戻し、静かな水のほとりに伴い、青草豊かな牧場に導いてくださるお方です。永遠の命に養う生けるパンとしてご自身を与えてくださいます。すべての恐れから解放してくださいます。

この主をちゃんとご存知でしょうか。そうではないですか。知ることは 主にお願いすることから始まります。恥ずかしいことではありません。「この私を救われた主の民に加えてください。」と、真心で祈りましょう。自信がなければ、お手伝いさせてください。私たちすべてのものにこのように祈ることが必要です。祈ると主は必ずお答えくださいます！

祈祷：創造主、主権者、失われたものを探し当たるわが羊飼い、復活なさって 命を約束してくださる救い主、天においても地においても一切の権能を授かり、栄光を帯びて再びおいでになるイ

イエス様！私たちにもご自身を表してくださることを心から感謝いたします。でも、あなたのことを十分に知らない、知らされていない人々はお大勢います。ただいま、あなたのみ前にいる私たちを憐れみ、私たちにもご自身をお示してください。あなたをさらにしたしく知ることができますように、あなたを心にお招きすることができるように、お助けください。あなたがこんな恵みをちゃんと備えてくださることを信じて、感謝申し上げます。み前に集ってもためらう仲間がいれば、どうか、あなたの羊としてお扱いただきますように。優しく、お導きください。主イエス様のお名前によってお祈り致します。アーメン。